

施策名：地球規模の諸問題への取組

個別分野1：人間の安全保障の推進と我が国の貢献

中期目標

- 「誰ひとり取り残さない」という考えの下、SDGs達成に向けた取組を加速化することで、人間の安全保障の推進に貢献する。
- 人間の安全保障基金を活用しつつ、国際機関内での人間安全保障の概念の主流化を図る。
- 人間の安全保障の理念に立脚し、「誰の健康も取り残さない」との観点から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向け、以下の取組を実施する。
 - 国際社会におけるUHCの理解促進に向け、指導力を発揮し、各国におけるUHCの達成に向けた具体的な取組を促進する。
 - 新型コロナウイルス感染症、結核、エイズ、マラリア、エボラ出血熱等の感染症の予防・対策、強固な保健システム及び緊急事態への備えの構築に向け、二国間や国際保健機関を通じた支援を推進する。

過去3年度（令和3～5年度）の主な取組

持続可能な開発のための2030 アジェンダ実現に向けた取組の具体化・拡充及び人間の安全保障への具体的貢献

- 令和3年：国連ハイレベル政治フォーラムにおいて、SDGsの進捗に関する自発的国家レビュー（VNR）を発表。日本、コスタリカ、セネガルを共同議長として、人間の安全保障フレンズが再結成。国連事務総長による「我々のコモンアジェンダ」報告書やアジア欧州会合（ASEM）のプノンペン声明（首脳会合成果文書）において、人間の安全保障について言及。
- 令和4年：SDGサミットの機会を通じ、日本の取組を発信。日米首脳共同声明「自由で開かれた国際秩序の強化」や第8回アフリカ開発会議で採択されたTICAD8チュニス宣言において、人間の安全保障を盛り込んだ。
- 令和5年：G7広島サミットや国連総会において、人間の安全保障の重要性を発信するとともに、12月、我が国のSDGs実施指針が4年ぶりに改定され、SDGs達成に向けた取組の更なる強化・加速に貢献した。（[詳細](#) [詳細](#)）

今後の方向性

- 改定されたSDGs実施指針に基づき、国連の枠組み、二国間・多国間外交の成果文書等を通じて、各国・地域・国際機関等との連携を強化しつつ、SDGs達成のための国際協力、人間の安全保障の推進に貢献する。

人間の安全保障基金によるプロジェクトの推進

- 令和6年1月に公表された人間の安全保障に関する国連事務総長報告において、人間の安全保障基金が、人間の安全保障を実践する有効なツールとして位置付けられた。
- 具体的には、モルドバにおけるウクライナ避難民支援や、コロナ禍からの復興支援等、分野横断的な課題に対して、複数の国際機関の特性を活かしたきめ細やかな支援を行うことで、現場における人間の安全保障の実践を通じて、国際機関における人間の安全保障の概念の主流化に貢献した。

- 国連システムにおける人間の安全保障の概念の主流化に向けて、人間の安全保障基金をより効果的なツールとして活用していくことを目指す。

過去3年度（令和3～5年度）の主な取組（続）

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)及び感染症対策の推進

総論：UHC及び感染症対策に取り組む国際機関等へ拠出。戦略的議論に参加。

- 令和3年：東京栄養サミット2021を主催し「東京栄養宣言」を発出。（[詳細](#)）
- 令和4年：TICAD8において、グローバルファンドに対して今後3年間で新たに最大10.8億ドルを拠出することを表明。4月のCOVAXワクチン・サミット2022において、岸田総理大臣から、最大15億ドルの貢献を表明。
- 令和5年：G7広島サミットで、グローバルヘルス・アーキテクチャーの構築・強化、UHC達成への貢献、ヘルスイノベーションの促進を三本柱とした国際保健分野の議論をリード（[詳細](#)）。UHC及び感染症対策の推進につき、同年9月の国連総会ハイレベルウィーク（HLW）における岸田総理のグローバル・ゴールキーパー賞受賞に見られるように、G7広島サミットの保健分野の成果を含む国際保健における日本のリーダーシップが高く評価された（詳細 詳細）。

今後の方向性（続）

各国国際機関等への拠出、働きかけ、各機関内での戦略的議論に参加し、UHC及び感染症対策を推進する。

- とりわけUHC達成・感染症対策の推進の効果が最大限となるよう、各国国際機関間での機能的連携を働きかける。
- 2023年のG7議長国としての成果をフォローしつつ、2030年のSDGs達成に向け、（1）UHC達成、（2）健康危機の予防・備え・対応のためのグローバルヘルス・アーキテクチャーの構築・強化に関する具体的な取組を持続可能な形で進める

評価結果

各国国際機関等との連携や戦略的議論への参加を通じて、「誰ひとり取り残さない」という考えの下、SDGs達成に向けた取組を加速化することで、人間の安全保障の推進に貢献、国際機関内での人間の安全保障の概念の主流化を図るとともに、更には、人間の安全保障の理念に立脚し、「誰の健康も取り残さない」との観点から、UHCの達成に資する取組を進めることができた。

次回評価時（令和9年度）に向けての中期目標

- 1 「誰ひとり取り残さない」という考えの下、SDGs 達成に向けた取組を加速化することで、人間の安全保障の推進に貢献する。
- 2 国際機関内での人間安全保障の概念の主流化を図る。
- 3 人間の安全保障の理念に立脚し、「誰の健康も取り残さない」との観点から、UHCの達成に向け、以下の取組を実施する。
 - 国際社会におけるUHCの理解促進に向け、指導力を発揮し、各国におけるUHCの達成に向けた具体的な取組を促進する。
 - 戦略的議論への積極的参加や、二国間や国際保健機関を通じた支援を通じ、新型コロナウイルス感染症、結核、エイズ、マラリア、エボラ出血熱等の感染症の予防・対策、強固な保健システム及び緊急事態への備えの構築に貢献する。

参考：人間の安全保障基金プロジェクトによる裨益者数（万人）			
（出典：国連作成文書）	実績値		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	279	750	258